

芋井の
地域新聞
イーモイ

第2号

2024年11月

発行者
いもいりピングらぼ
地域新聞作成班
編集長 村田恵美子

百舌原地区の伝統を繋ぐ秋祭り

10月5日に秋の実りを感謝する百舌原の秋祭りに参加させてもらいました。

百舌原公民館に集まり、準備が整うと御供物を手にした人々がお練りをしながらお宮に向かって歩き出します。おおぬさ（大麻）をもった区長さんが先頭に立ち、十二神社のお宮までみんなで練り歩きます。お宮は地区東側の高台にあります。鳥居をくぐると境内は広く立派なお社があり、由緒ある古木もあります。（百舌原のシナノキとカスミザクラ）

境内に入るとご神事と御神楽の準備が行われます。神主さんのありがたい祝詞奏上と共に御神事が肅々と行なわれ、その後お神楽と



御神楽と準備の様子

お囃子、そして見応えのある獅子舞の奉納がされました。ご神事の後は公会堂に戻ってお祭りの楽しみ、直会（なおりい）が始まりました。



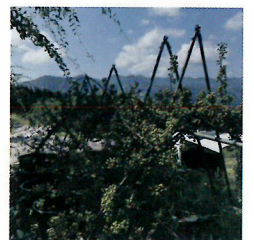
今では貴重な獅子舞



上犬飼で長年続いてきた花卉栽培
蔓梅擬（つるうめもどき）

園芸用の花卉として栽培されている、つるうめもどきのご紹介です。戸隠と芋井で栽培されているつるうめもどきは長年品種改良を重ね、実つきもよく規格が揃っている立派な花材です。品質も日本一だそうです。ところが昨年、栽培者の和田さんが体調を崩し、栽培中止の憂き目に。こんなに素晴らしいものが無くなってしまふのは勿体無い！ということで、元々和田さんと繋がりのあった花卉の会社の河上さんが昨年からおバトンタッチ。つるうめもどきの栽培を担いはじめました。

つるうめもどきはグリーンからオレンジへと色の変化が長く楽しめます。アメリカ、香港、中国、台湾など、輸出先も多岐に渡ります。つるうめもどきは昔から花道の世界、生花の世界で使われていて、ホテルなどでもボリウムと色の変化が好まれ、とても重宝されているそうです。



出荷を待つつるうめ



収穫の様子



(株) エニバーサルフラワーサービス
長野営業所 所長
河上耕一郎さん



つるうめの生け花

～地区探訪～ 洞地区



洞地区の観音さまのお堂



地区探訪のコーナー。

今回は洞（ホラ）地区です。取材した日はお天気が良く、洞はとも日当たりの良い地域だと感じました。雪が降っても日当たりが良いのでわりあい早く溶けてくれて暮らしやすいとのこと。洞から県庁までは車で15分もあれば行ける便利な立地です。この地区は昔から道が開けていて広く、年に3回は区内の人達で草刈りもなされ、道も整っていて綺麗です。地区内には昔は虫葉地蔵というお地蔵様の祠があったようですが、今は人が入っていけなくなっているとか。また、少し離れたところに洞地区の観音さまが祀られているお堂があり、綺麗に手入れされています。神明さんと呼ばれるお宮もあり、4月頃に春祭りが開催されるそうです。



洞区長
山口志朗さん

洞地区にあった善光寺温泉

洞地区といえは、かつて存在した善光寺温泉を思い浮かべる方も多くいらっしやると思います。善光寺白馬鉄道の駅近くにあったようですが、今は建物も無く、自然に返っており、一部の堀だけが往時の立派さを忍ばせています。

温泉の成分は詳しくはわかりませんが、皮膚に効くと言われて有名だったそうです。地滑りなどがあって結局閉館されたまま再開の目処は立っていません。

洞の地域は数軒の家が地滑り区域に入っていることもあり、防災の意識も高く、今でも台風などの際には水を止めたり配慮も積極的にしています。



棚田が広がる洞地区

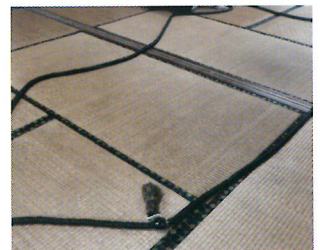


お宮の六地藏

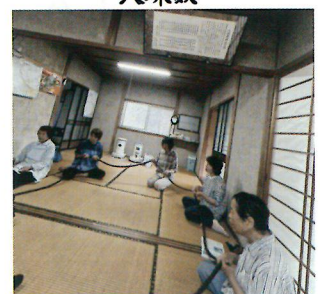


ありし日の善光寺温泉
(芋井地区戦後50年誌より)

下犬飼の御数珠廻し



お数珠廻しに用いられる
大珠数



9月下旬、下犬飼で御数珠廻しが行われると聞いて取材させてもらいました。年に数回行われていて、集まった全員でお経を唱えながら数珠を廻し、7回目に房（ふさ）が回ってきたら親玉か房を額に当てて次の人に廻します。珍しく貴重な文化の継承で、ぜひ無くならず継続して欲しいと思いました。

お庭拝見

突発的に発信する、個人のお宅のお庭拝見のコーナーです。



影山地区・小林様宅